

あいち病害虫情報 最新情報

令和6年7月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

7月11日名古屋地方気象台発表の1か月予報によると、向こう1か月の天候は、暖かい空気に覆われやすいため気温が高く、特に期間の前半でかなり高くなる見込みです。向こう1か月の降水量については、期間のはじめで前線や低気圧の影響を受けやすく、平年並か多いと予想されています。

イネいもち病

7月上旬の巡回調査の結果、葉いもちの発生量はやや多い状況です。また、BLASTAMによるいもち病（葉いもち）感染好適日の推定結果では、7月10～14日に稲武で感染好適日が連続して発生しています。詳細は、本日発表の「イネいもち病（葉いもち）情報第3号」を参照してください。

斑点米カメムシ類

7月上旬の巡回調査の結果、斑点米カメムシ類の捕獲数は、水田内で過去10年間と比較して最も多く、畦畔雑草で2番目に多い状況です。また、県内各地の水田においてイネカメムシの発生が確認されています。詳細は、本日発表の「令和6年度病害虫発生予察注意報第5号」を参照してください。

トビイロウンカ、セジロウンカ

トビイロウンカは、7月上旬の巡回調査では捕獲されていませんが、予察灯では7月2日に長久手市で1頭誘殺されています。詳細は、本日発表の「ウンカ類情報第2号（トビイロウンカ）」を参照してください。

セジロウンカは、7月上旬の巡回調査で、94ほ場中22ほ場で発生を確認し、発生量は平年並です。予察灯では、6月第5半旬から7月第1半旬にかけて、大口町で9頭、長久手市で6頭、豊川市で5頭が誘殺されています。

トビイロウンカとセジロウンカは、ほ場ごとで発生密度に差が大きいので、ほ場をよく観察し、今後の発生に注意してください。

ニカメイガ

弥富市、安城市において、ニカメイガによる水稻の被害の多いほ場が確認されています。今後、次世代による被害が多発するおそれがあります。本害虫による被害が多発した場合、心枯れ茎や白穂となる株が増加し、ひどい場合は白穂被害の多発による減収を引き起こすこともあります。7月10日発表の「ニカメイガ情報第1号（水稻）」を参考に防除しましょう。

ダイズ・野菜類・花き類のチョウ目害虫

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、碧南市、安城市、西尾市においてやや多い状況です。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、長久手市で多い状況です。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、豊橋市において多く、豊川市、西尾市においてやや多い状況です。7月3日発表の「令和6年度病害虫発生予察注意報第

4号」を参考に、防除を実施しましょう。

果樹の病害

すでに収穫に入っている作物、品種があります。農薬散布にあたっては、当該ほ場だけでなく、周辺のほ場の収穫時期も考慮して、収穫前日数及び農薬のドリフトに十分注意してください。

モモせん孔細菌病は、この時期に形成される夏型枝病斑から活発に病原菌が増殖、漏出します。これが感染源になるので、見つけ次第切除し、ほ場外へ持ち出し処分しましょう。次作への越冬病原菌量を増やさないためにも、収穫後の防除を行いましょう。

果樹カメムシ類

予察灯及びフェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数はやや多い状況です。今の時期、チャバネアオカメムシはヒノキやスギの球果などを餌として生育しており、これらの球果を食べ尽くすと、餌を求めて果樹園へ飛来します。果樹園への飛来状況に注意し、必要に応じて防除しましょう。また、8月上旬発表予定の「果樹カメムシ情報第3号」で、7月下旬のヒノキ球果におけるチャバネアオカメムシの生息状況等を掲載する予定ですので、参考にしてください。

チャノキイロアザミウマ

カンキツほ場における本種の黄色粘着トラップにおける誘殺数は、南知多町で平年並の状況ですが、蒲郡市で6月第6半旬から7月第1半旬にかけて急増しています。今後の発生状況に注意してください。また、ブドウほ場における本種の誘殺数はやや少ない状況です。本種の防除適期は、成虫発生ピークの時期です。アメダス観測地点における有効積算温度を利用した成虫発生ピークの予測日（下表）を参考に防除を行いましょう。

表 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖		稲武
第3世代	7/3	7/5	6/28	6/30	7/2	7/3	7/2	7/1	7/4	7/2	第2世代	7/4
第4世代	7/21	7/23	7/17	7/19	7/21	7/21	7/20	7/19	7/24	7/19	第3世代	7/27
(前年)	7/21	7/21	7/15	7/17	7/21	7/21	7/20	7/20	7/24	7/20	(前年)	7/28
前年差	±0	2日遅	2日遅	2日遅	±0	±0	±0	1日早	±0	1日早	前年差	1日早
第5世代	8/7	8/9	8/3	8/4	8/7	8/8	8/6	8/6	8/10	8/6	第4世代	8/16

各地のアメダス平均気温から予測。7月16日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。前年の第4世代（稲武は第3世代）は前年気温の実測値を用いて計算。

ナシヒメシンクイ

6月下旬に実施した巡回調査において、モモのナシヒメシンクイによる被害新梢率は平年並でしたが、フェロモントラップにおけるナシヒメシンクイの誘殺数は、やや多い状況です。今後、ナシにおいても被害が発生するおそれがありますので注意しましょう。

クビアカツヤカミキリに注意！

尾張地域でクビアカツヤカミキリの発生を確認しています。本虫はモモやウメ、サクラなどに寄生し、樹木内部を食害し、樹の衰弱、枯死を引き起こします。クビアカツヤカミキリ成虫を発見した場合は、直ちに捕殺してください。

また、果樹園で成虫や被害を見つけた場合は、病害虫防除室またはお近くの農業改良普及課までお知らせください。本虫の詳細については、令和6年6月18日発表の「令和6年

度病虫害発生予察特殊報第1号」を参考にしてください。

イチゴ炭疽病

イチゴ炭疽病の発生が一部の育苗ほ場で確認されています。育苗期間は薬剤による予防的防除を行い、ほ場での発生に注意しましょう。発病株を発見した場合、発病株周辺にある株も罹病している恐れがあります。発病株とその周辺にある株を処分しましょう。また親株で発生した場合は、その親株から生長したランナー及び子株も処分しましょう。

トマトキバガに注意！コナジラミ類と合わせて対策しましょう

トマトキバガの県内農作物への被害は確認されていませんが、複数地点のフェロモントラップで継続的に誘殺されています。7月3日発表の「トマトキバガ情報第2号」及び令和5年10月23日発表の「令和5年度病虫害発生予察特殊報第1号」を参考に、ほ場での発生が疑われる場合は病虫害防除室またはお近くの農業改良普及課へお知らせください。疑わしい被害葉及び果実は、ほ場やハウス周辺に放置せず、速やかに土中深くに埋却するか、ビニール袋で一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させたいうえで、適切に処分しましょう。

トマト黄化葉巻病や黄化病のウイルスを媒介する恐れのある、タバココナジラミやオンシツコナジラミが露地で活発に活動する時期です。施設栽培では、トマトキバガとコナジラミ類の侵入防止対策として、防虫ネット（目合い0.4mm以下）を設置しましょう。また両害虫の苗への加害を防ぐために、最新の農薬登録情報を確認し、両害虫に適用のある薬剤で効果的に防除しましょう。

サツマイモ基腐病

全国で発生が確認され、愛知県でも令和4年、5年に発生を確認しています。感染防止のため早期発見に努め、葉のしおれや黄化、株元の変色などが見つかった場合は、病虫害防除室またはお近くの農業改良普及課へお知らせください。サツマイモ基腐病の生態と防除に関する詳しい情報は、農研機構「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」をご覧ください。「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」（令和4年度版）https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/158250.html

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病虫害情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病虫害防除室 TEL 0561-41-9513 FAX 0561-63-7820
